

▼錦帯橋について説明する竹本さん



観光ガイドの勉強は、実際に先輩ガイドと一緒に錦帯橋や岩国城、吉香公園などを歩き、説明を聞き、自分でメモをする。それを3カ月程度繰り返し、自分なりのガイドブックを作り上げていく。そうすることで、自然と頭に観光地の知識が定着していくそうです。その後、自分で観光客に声を掛け、先輩ガイドが後ろから補助しながらの観光案内へと移っ

年間約70万人の観光客が訪れる、国の名勝錦帯橋。その周辺を観光客などに無料で観光案内している「岩国観光ガイドボランティア協会」の会長を務めているのが竹本さんです。

竹本さんは柱野で生まれ育ち、岩国工業高等学校を卒業後就職し、周南市や広島県呉市、中国の山西省などで勤務しました。定年退職後、地元に戻っ

てきましたが、自分が錦帯橋をはじめとした岩国のことをほとんど知らないことに気付き、図書館などで独学で勉強していました。そんな時、広報いwakに観光ガイド募集の記事を見つけ「これはちょうど良い」とすぐに応募し、観光ガイドへの門を叩くことになりました。

ていきます。竹本さんはお客さんとの会話のキャッチボールを大切にしながら面白おかしく案内することを心掛けています。『二方向的に説明しても、聞いている方は面白くない。だから途中でクイズを出すなどして、雰囲気と和ませながらガイドしています』とのこと。

頑張つてガイドをしていると「ガイドが面白くて、こんなに楽しい旅行はじめて。ありがとう」と嬉しい言葉を掛けてもらえることもあり、そのことが支えとなつて、毎週土・日曜のガイドをしていても疲れないと、竹本さんは言います。「より多くの人に岩国のことを知ってもらうために、まず実際に錦帯橋などに来てガイドを利用してみてください。また、もっと大勢の人を案内できるように努力していきたいです」と満面の笑顔で話してくれました。



会話のキャッチボールを大切に

Vol.59

竹本 邦夫さん
(柱野在住)

定年退職後、岩国に帰郷。岩国のことを勉強しようと観光ガイドボランティア講座に応募。現在は「岩国観光ガイドボランティア協会」会長として積極的に活動されている。



▲ガイド仲間と竹本さん
(右から2人目)



▲仕事で中国に(安徽省黄山)

